

令和元年11月1日

佐野市議会議長 春山 敏明 様

厚生常任委員会委員長 菅原 達

厚生常任委員会行政視察報告書

- 1 期 日 令和元年10月1日（火）及び 同月2日（水）
- 2 視察地及び視察事項
  - (1) 富山県富山市  
「富山市まちなか総合ケアセンターについて」
  - (2) 石川県小松市  
「DBO方式による新ごみ処理施設（エコロジーパークこまつ・クリーンセンター）について」
- 3 派遣委員 菅原 達 委員長、 慶野 常夫 副委員長、 春山 敏明 委員、  
岡村 恵子 委員、 篠原 一世 委員、 鈴木 靖宏 委員
- 4 随行者 議事課 議事調査係 係長 小林 由美子
- 5 視察概要 別紙のとおり

## 富山市 視察概要

### (1) 富山県富山市

#### 富山市の概要

- ・人口 418,045人
- ・面積 1,241.77km<sup>2</sup>
- ・議員定数 38人      ・政務活動費（議員一人当たりの年額）180万円

#### 視察概要「富山市まちなか総合ケアセンターについて」

##### ○内容

当総合ケアセンターは、乳幼児から高齢者、障がい者を含む、すべての地域住民が安心して健やかに生活できる健康まちづくりを推進するため、子育て支援や在宅医療等のサービスを一元的・包括的に提供する施設であり、このセンターを拠点に子育て支援や在宅医療・地域コミュニティを醸成させる事業を新たに展開しているこの施設を実際に見学させていただき、佐野市民すべてが安心して健やかに生活できる健康まちづくりを推進できるよう視察研修を行うものであります。

##### ○所感

このセンターは、中心市街地にあった小学校跡地を活用して、PPP（公民連携）の手法により整備した「総曲輪レガートスクエア」の公共施設部分に当たり、この他に民間施設部分として専門学校やレストラン・フィットネスクラブなどが併設しておりとても有効活用され活気あふれるところでした。

維持管理費が年間4億円程投入できることは、人口が約42万人の予算規模の大きさだけではなく、医療・福祉・健康をベースとした質の高い暮らしを市民に提供しようとする行政の強い意志の表れと、それに呼応した民間との協働の成果であると感じました。

センター内には、5つもの事業所があり、赤ちゃんから高齢者まで、また障がいのある方々が安心して利用できる素晴らしく羨ましい施設であると感じました。今回の行政視察で勉強させていただいたことを佐野市の行政に活かしていきたいと思いました。

## 小松市 視察概要

### (2) 石川県小松市

#### 小松市の概要

- ・人口 108,583人
- ・面積 371,05km<sup>2</sup>
- ・議員定数 22人      ・政務活動費（議員一人当たりの年額）84万円

#### 視察概要 「DBO 方式による新ごみ処理施設（エコロジーパークこまつ・クリーンセンター）について」

##### ○内容

エコロジーパークこまつは、クリーンセンター・リサイクルセンター・最終処分場の3つの施設が備わったもので、DBO方式（設計、建設と運営、維持管理を民間事業者に一括発注する公設民営の一つの方式）により、総合的に市の負担を抑えた事業であり、これらの先進的な事業を勉強し佐野市の環境問題の改善の為に視察研修を行うものであります。

##### ○所感

このDBO方式は廃棄物処理施設の建設において注目されておりますが、佐野市のごみ処理施設開設当時には最先端として評価されていた「ガス化溶融炉方式」が維持管理費の高さが難点とされ見直される中、この小松市では逆にその良さが見直されている「ストーカー方式」により難点を克服していました。

建設にあたっては、国から約30億円の循環型社会形成推進交付金などを受け、維持管理においては、ごみ焼却発電で年間5,000万円の自己消費の電気代削減と、余剰電力の売電で年間5,000万円の収入があり、民間委託効果と合せ年間1億6,000万円の削減効果を出している。

「可燃ごみ指定ごみ袋」を採用することにより、ごみ削減に大きな成果をあげており、これは「ごみダイエット袋」と言われ、単なるごみ有料化ではなく標準的な必要数を無料配布し、不足した場合に購入するもので、おむつを使用する家庭はその分を余分に無償配布してくれる子育て世代の家庭にはとても嬉しい仕組みとなっています。

同じ敷地内に最終処分場を有する自己完結型の施設とすることで、施設の維持管理費の削減やエネルギーの有効活用・ごみの削減など大変バランスの良い取り組みであり、ごみ処理施設の使用年数が迫る佐野市にとって、とても参考となる視察研修でした。